

視点を変えれば、 世の中は変わる。

たとえば

半分だけ水の入ったコップを見て、
もう半分しかない、と思うか、
まだ半分もある、と思うか。

視点を変えれば、

世の中の見え方は変わってきます。
当たり前だと思っていたことでも、
違う視点から見つめ直してみると、
新しい発見があることがあります。

Rethinkフォーラムは、
一人では気づけない

新しい視点に気づくことで、
地域活性化のきっかけを見つげる場です。

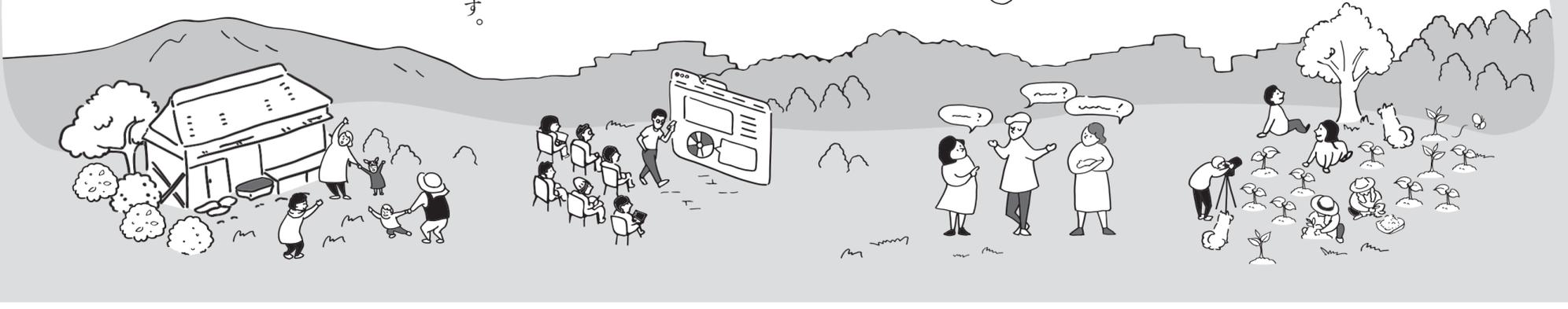
視点を変えれば、世の中が変わる。

地域が変わる。

未来を変える発見は、

意外と身近に

あるのかもしれない。



「Rethinkフォーラム～視点を変えれば、世の中は変わる」(愛媛新聞社主催、愛媛県、松山市、愛媛県教育委員会など後援、Rethink PROJECT協賛)が8月7日、松山市のANAクラウンプラザホテル松山で開かれました。第1部は経営コンサルタントの坂口孝則さんが「人生100年時代に求められる、新たな視点」と題して講演しました。第2部は松山市の野志克仁市長、順風会天山病院成育医療支援室の小谷信行室長が加わり、「Rethink愛媛～活気ある愛媛の未来のために～」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

ゲスト



さかぐち たかのり
坂口 孝則 氏 (経営コンサルタント)

演題: 人生100年時代に求められる、新たな視点

1978年生まれ、佐賀県出身。大学卒業後、メーカーに入社し調達部門でバイヤーとして200社以上を担当。著書は「調達力・購買力の基礎を身につける本」「調達・購買実践塾」など、7月発売の最新刊を含め38冊。コスト削減、原価、仕入れなどの専門家としてテレビ、ラジオなどで活躍中。

★ 学び続ける先にある「ウェルビーイング」★

今日言いたいことは一つだけです。同じことをやっていたら同じ結論になります。違う結論を導くには、新たなステップ、視点を変える Rethink が必要だということです。

私は経営コンサルタントと呼ばれていますが、もともとは総合電機メーカーで資材係を担当していました。外部の企業から部品や材料を調達する仕事で、取引先に部品の納入を催促するため、毎日300件くらいの電話をかけ続けていました。

どうしても部品が納入されないときは現場に赴きます。当時、拠点だった神戸から大阪の取引先に行ったり、秋田県の山中にある工場に、豪雪の中を出向したり。行って何をやるのか? 部品が出来上がるまで、ただ、待つのです。こうしたことをずっと繰り返していました。

ある日、知人を介してたまたま出版社の編集者と出会う機会があり、こういう仕事をしています、と話したところ「こんな珍しい経験をしている人はいません。本になります」と薦められ、3カ月後に「牛丼一杯の儲(もう)けは9円「利益」と「仕入れ」の仁義なき経済学」という本をお金になりました。サプライチェーン(供給網)や調達の経験が活かすことは、と思いました。

相前後して、企業の調達や購買、資材業務をサポートする会社「未来調達研究所」を友人3人と立ち上げました。ところが当初は仕事の依頼が全くなく、うつ状態のところ、妻が妊娠。家族を養わねばという人なかに会いました。

そんな中、ある講演の依頼があり、頑張って引き受けたのですが、ギャラが支払われません。こうした詐欺師みたいな人がいろいろ来しました。

でも、ここからが人生の面白いところです。この講演を聴いたという一人の方から連絡があり、あなたのことが気に入ったので来てください、と言う。テレビ番組制作会社のお偉いさんでした。カメラの前で受け答えの速さをみるテストなどを受けた結果、加藤浩次さんが司会する番組に、まさかの私が登場することになったのです。

★意識することで見えてくるものは変わる

今は個人情報保護が厳しいですが、会社設立当時、顧客を増やすため名簿業者から情報を買ってダイレクトメールを送ろうと考えました。1件200円なので4万件送るとなると800万円です。これが国会図書館なら名簿が無料で手に入ると知り、手弁で取り組んだら、わずか8万円ほどで済みました。

これらは一例です。言いたかったのは「見ているものはみんな一緒だけど、意識することで見えてくるものが全然違う」ということです。

「見えているものを変える」。僕が2人の息子にもずっと言い続けていることです。現在6年生の息子は、1年前には「夏休みの宿題で3Dの画像を作りたいけど、絶対できない」と言っていました。僕は「これまでとやり方を変えたらできる」と背中を押しました。彼は3カ月かけて、住

んでいる新宿の街並みを3DCGで制作し、さらに冬休みの課題ではシューティングゲーム(ビデオゲームの一種)も作りしました。

小学生も本気でやったらできるんです。できないのは、やろうとしないだけ。不可能はないんです。大事なのは、やろうと思うこと、「同じこと」をやらないこと。そして、違うことをするためには、とにかく学ぶことです。

★「一日一生」。過去にこだわらない

僕はサインを求められれば必ず「一日一生」と書きます。人生に限界を感じていても、一日一日新しい人生が繰り返されるのならば、過去にこだわる必要はありません。今から新しい視点、新しい視点で人生を作り直せばいいのです。

よく、人生は無駄なことはないといわれますが、実際は無駄なことだらけ。重要なのは、無駄なことへの意識や行動、視点を変えて次につなげていくことです。僕は高校生の頃から種類のヘビメタル好きで毎週ライブに通っていました。この夢だっけとあきらめずいたら、音楽雑誌で解説をするまでになりました。何でもいから、違うことをやりましょう。学び続け、視点を変え続けていく先に、ウェルビーイング(心身の充足・幸福)、新しい人生が待っているのです。

テーマ「Rethink愛媛～活気ある愛媛の未来のために～」

パネルディスカッション出演者 坂口 孝則氏、野志 克仁氏(松山市長)、小谷 信行氏(順風会天山病院 成育医療支援室室長 医学博士)、大澤 さつき氏(フリーアナウンサー)

モデレーター

●ライフステージに応じた切れ目ない支援

大澤 松山市の少子化対策、子育て支援の現状を教えてください。

野志 今年4月に子ども家庭部を創設、出会い・結婚・妊娠・出産・育児と、ライフステージに応じた切れ目ない支援を充実させています。まず出会いを応援するため、さまざまな婚活イベントを実施。新婚世帯には、引っ越し費用や家賃の一部を条件付きで補助します。妊娠・出産は伴走型で支援しており、保健師らによる面談機会を従来より2回増やし、経済的支援として10万円の応援金を支給。さらに29歳以下の父母に育児用品・省エネ家電製品の購入や奨学金の返還を助成しています。子どもの通院・入院費の無料化は今年12月、対象を高校3年生など18歳の年度末までに拡大。保育施設は14年の66園から23年には125園とほぼ倍増し、待機児童ゼロを達成しました。

小谷 孤立してしまうお母さんもいます。妊娠・出産に関する保健師の相談回数の追加は、大きな勇気になりますね。

野志 子育ては社会全体で支える必要があると考えています。働き方改革も重要で、7月に仕事と子育ての両立がしやすい職場環境づくりなどに取り組む「子どもまんなか応援サポーター」を松山商工会議所、松山法人会、県中小企業家同友会などと宣言しました。

●均一化された価値観にとらわれないで

坂口 少子化が進むのは、マスコミがさまざまな問題を報

道し、身近な人からも育児は大変だと聞かされ、単純に幸せそうに見えないから、との理由もあると思います。子育ては楽しい、と繰り返し伝えることが重要ではないでしょうか。

小谷 例えば不登校が不幸だと勘違いしている、それは世の中の均一化された価値観の中にあるからです。学校と違う場所で教育を受け、中学高校くらいから力や才能を發揮できる子もいます。江戸時代などをイメージすれば、もっと多様な価値観の中で子育てできていました。価値観を少し違う視点から見ると幸せになります。私が3年半働いたイギリスに、不登校という言葉はありませんでした。子どもが学校に行きにくくれば、違う種類の学校に行く仕組みがあるからです。県内でも各地にフリースクールができており期待しています。

坂口 育児は既成概念にとらわれてしまい、逃げるという選択が取りづらくなります。明治大正時代の小説を読むと、働かないでゴロゴロしている人もいて、むしろ新しい文化はそういうところから生まれています。

小谷 いいかげんな親の子どもは学校嫌いになっても不登校にはなりません。真面目な親の子は失敗したり、自分の考えと違う決定があったりすると混乱してしまいがちです。家庭教育のあり方は、変えるべきだと思います。戦後、団塊の世代を中心に競争に勝たなければならないという考えが広がりました。でもマラソンでいえば途中で遊んでいても、30*くらいから追い付いて自分なりのものを創る子はたくさん

います。

坂口 僕は息子に「父親の言うことを信じるな。迷ったら、親が賛成する方を選ぶな」と言っています。心の中では信じてほしいのですが。

小谷 コミュニケーションの技術ですね。「学校に行くな」「わがまま放題しなさい」などと言うと、子どもは「少しはしてもいいんだ」と感じます。イギリスでは、子どもの自己決定を大切にします。親は選択肢を三つか四つ提示し、「こうしなさい」と一つしか示さないことはしません。子どもは自分で選定したことは努力もするし、責任も取ります。

●町もわが子も、長所を再発見し磨いていこう

大澤 松山が子育ての喜びを感じながら、さらに心豊かに暮らせる町になるためには。

野志 たくさんある町の宝を再発見して、宝を磨くことが大事です。通勤通学にかかる時間は、愛媛は全国2位の短さ。また松山市は生活に必要な店や病院・診療所までの近さが全国1位。地元産の食材の入手のしやすさも高い水準です。

小谷 わが子も同じで、かわいいからずっと一緒にいるので、悪いところばかり見えてしまいます。イギリスの子育てでは、社会で武器として使える特性を磨くことです。話すことやスポーツ、記憶力など、徹底して長所を伸ばします。すると12、13歳で将来を決めるときに自分に合った道を選ぶことができます。わが子のいいところに気づくと、親が元気になるんです。子どもや自分自身の素晴らしさも再考してみてください。

